

フィールドワークⅠ 報告書の書き方


1. 報告書作成の前提・構成

【報告書作成に関する前提】

- 文体は「である」調。「ですます調」はダメ。
- 箇条書きは用いず、文章で記述する。体言止めは用いず、しっかりとした“文”として記述する。
- 1つの文を長くしすぎない。
- 主観的と思われる表現は使わない。
 - × 「私は～」、「～だと思う。」
 - 「著者は～」、「～だと思うれる。」「～と考えられる。」
- 調査テーマやそのテーマに関する先行研究を知らない人が読んでも理解できるような内容にする。

【報告書の構成】

- 1ページ目冒頭にタイトル、学籍番号、氏名を記載する。続けて本文を書きだす(改ページ不要)。
- 本文は、「問題と目的」「方法」「結果」「考察」で構成し、最後に「引用文献」のリストをつける。

 本文は、「調査テーマに関してこんな問題があり、今回の調査は〇〇を検討することが目的。それを検討するためにこんな方法で調査を実施した。調査したらこんな結果が得られた。よって、問題（検討したかったこと）に対する答えはこうだと考えがえられる。」という流れ。この流れを意識してレポートを書こう！

2. タイトルについて

調査で検討したこと(つまり、目的)が分かるようなタイトルを考える。場合によってはサブタイトルをつけても良いだろう。 例)大学生の男女平等意識に関する調査－性別による平等意識の違い－

- タイトルの良い例と悪い例

<悪い例>

対人魅力に関する検討
性別と異性不安
SNS 利用の影響

<良い例>

自他の類似性と対人魅力の関連についての検討
性別による異性不安の違い
Twitter 利用が孤独感に及ぼす影響

3. 「問題と目的」部分

「問題と目的」は、「なぜこの研究を行うのか」を述べる部分。具体的には、以下のようなことを記述していくとよい。

- 研究(調査)のテーマ…日常での経験談や事例、素朴な疑問を示しつつ、研究のテーマ・目的を述べる(まだ先行研究等を紹介していない段階なので、ごく簡単に)。
- 概念や現象の定義・説明…研究で取り上げる概念や現象が何を指しているのか、先行研究を引用しながら説明する。
- 関連する先行研究の紹介…今回の研究(本研究という)に関連して、これまでにどんな研究が行われ、どのような結果が示されているのか・どのようなことが分かっているのかを述べる。
- 本研究の目的・仮説…先行研究の問題点やこれまでに分かっていることなどを指摘し、本研究で検討することを(つまり、目的)を明確に述べる。仮説がある場合には、根拠を示しつつ仮説の内容を述べる。
 - ✓ 仮説は、“～～となるだろう”などと、推量形で記述する場合が多い。

【引用について】

- 本や論文など、文献に書かれていることをもとに記述した部分については、その部分が引用である
とわかるように記述しなければならない。（引用の仕方は、以下の例を参照）
- 引用であることを明記せずに引用した場合、それは「剽窃」となり、不正行為となる。
- 引用には、文献に書いてあることをそのまま引用する場合（直接引用）と、書いてあることを自分な
りに要約して引用する場合（間接引用）がある。

例1) 直接引用の例…「」内の部分が文献に書かれていることそのままの内容

工藤（2010）によれば、「自己は知識を蓄えた、ただの情報処理の装置ではな
く、そのようなモデルでは説明できない能動的な働きがある」という。

例2) 間接引用の例…「例えば～」の文は、引用している文献に書かれている実験結果の要約

最近の研究では、持つものの温かさが他者の印象に影響することが示されてい
る。例えば、温かいものを持って他者の印象を回答した場合は、冷たいものを持
って印象を回答した場合に比べ、好ましい印象が形成されることが示されている
（Williams & Bargh, 2008）。

【「問題と目的」の記述例】

近年、女性の社会進出が進んでいるが、女性に対する差別的な発言を
耳にすることもある。男女平等意識はどの程度浸透しているのだろうか。
本研究は、この点について検討するものである。

本研究では、男女平等意識の中でも、性役割態度に着目する。鈴木
（1994）によれば、性役割とは、……のことである。また、性
役割態度は、……である。鈴木（1994）は、男性よりも女性
の方が、低学歴よりも高学歴の者の方が、性役割態度が平等主義的であ
ることを示している。また、性役割態度に関しては、……であ
ることも明らかになっている。

しかしながら、性役割態度が〇〇と関連するかどうかについては未検
討である。そこで本研究では、〇〇と性役割態度が関連するかどうかを
検討することを目的とする。……であると考えられるため、本研
究では以下の仮説を設けた。

仮説 〇〇が高いほど、性役割態度は平等主義的だろう。

研究テーマ

概念や現象の
定義・説明

関連する先行
研究の紹介

研究の目的
と仮説

4. 「方法」部分

「方法」では、実施した調査の方法を具体的かつ詳細に記述する。“調査の内容を知らない人でも、読め
ば同じ調査を実施できるように”（＝追試できるように）ということを心がける。原則として時制は過去形。ま
た、「方法」では、次のような小見出しを設けて記述していく（必要な小見出しを追加してもよい）。

- 調査対象者…どのような人々を調査対象としたのかを書き、回答者の人数（男女の内訳も）や年
齢の平均値や標準偏差を記述する。回収率や有効回答数も記述する。
- 調査時期…調査を実施した時期（年月）を記述する。
- 質問項目…どんな質問をしたのか、具体的に説明する。先行研究の質問項目や尺度を用いた場
合は、先行研究を引用しつつ説明する。
- 手続き…調査実施手順を、時系列順に具体的に記述する。箇条書きにならないように注意する。

【「方法」の記述例】

調査対象者 「〇〇」を受講している〇〇大学の学生を対象とした。回答は〇〇名（男性〇名、女性〇名）から得られ、平均年齢は〇〇歳（SD = 〇〇）であった。回収率は〇〇%、有効回答数は〇〇であった。

調査時期 2017年6月に実施した。

質問項目 基本属性として、性別と年齢を尋ねた。性役割態度は、平等主義的性役割態度尺度（鈴木，1994）で測定した。この尺度には、「女性は仕事をせず、家事・育児に専念すべきだ」など20項目あり、各項目について「1.そう思わない－5.そう思う」の5段階で回答してもらった（具体的な質問項目は表1参照）。〇〇については、・・・・・・。

手続き 「〇〇」の講義時間中に調査票を配布し、〇分程度の時間を設けて調査を行った。調査票配布後、・・・・・・について説明を行い、回答を始めさせた。次に、・・・・・・。全員が回答を終えたところを見計らって、調査が終了したことを伝え、調査票を回収した。なお、調査票には本研究とは別の研究の質問項目も含まれていた。

調査対象者と調査時期の説明

調査項目の説明
※大問(尺度)ごとに説明するとわかりやすいだろう。

調査実施手順の説明
※時系列順に、実施した通りのことを書く。

5. 「結果」部分

「結果」では、調査で得たデータの分析結果を、具体的な数値を示しながら記述する。原則として時制は過去形。

【「結果」記述する基本的な内容】

① どのような方法によって集計・整理したか

② どのような分析を行ったのか

③ 分析によってどのような結果が得られたのか(図表にまとめるなどして分かりやすく提示する)

※ 分析結果の解釈や結果から示唆されることは「考察」に記述する。「結果」では数値の特徴や大小関係、関連(相関)や差が見られたかどうかなど、“客観的事実”を記述する。

具体的には以下のようなことを記述するとよいだろう。

- 信頼性分析…尺度を用いた場合、尺度のデータ処理について説明する(例. 逆転項目の逆転、尺度得点の算出方法)。また、信頼性分析の結果(α 係数)を報告する。
- 基本統計量…各調査項目の基本統計量(平均値・標準偏差・最大値・最小値など)を図または表にまとめたうえで、特徴的な結果については本文中で取り上げて説明する。
 - ✓ 図表を入れる場合は、それがどのような図表なのかを本文中で説明したうえで、説明した箇所の近くに挿入する。
- 目的(仮説)に関わる分析結果…研究の検討点・目的・仮説に関わる分析の結果について記述する。結果を図表に示し、具体的な数値を適宜記述しながら結果を説明する。
 - ✓ 図表に示した数値すべてを記述することではない。
 - ✓ 統計的検定を実施した場合は、どのような検定を実施したのかを説明し、数値を挙げて検定結果を記述する。

【「結果」の記述例】

信頼性分析 まず、平等主義的性役割態度尺度の分析を行った。逆転項目を逆転し、回答者ごとに 20 項目の合算平均を算出し、これを性役割態度得点とした。この得点の範囲は 1～5 で、値が大きいほど性役割態度が平等主義的であることを表す。信頼性分析を行ったところ、 $\alpha = .83$ であった。次に、・・・・・・。

基本統計量 性役割態度得点、〇〇、および△△の基本統計量を算出した。その結果を表 1 に示す。性役割態度得点の平均値は〇〇となり、非常に高い値であった。・・・・・・

仮説に関わる結果 本研究の仮説は「・・・・」というものであった。この仮説を検証するため、〇〇と性役割態度得点の相関分析を行った。その結果、〇〇と性役割態度得点の間には 5%水準で有意な正の相関がみられた ($r = .〇〇, p < .05$)。

鈴木 (1994) は性役割態度に性差が見られることを報告しているが、本研究でも同様の結果が得られるか検討した。性役割態度得点の男女別平均値を図 1 に示す。男性の平均値と女性の平均値を比較するため、対応のない t 検定を行った。その結果、・・・・・・。

【図表の作り方】

図表には、通し番号と適切なタイトルをつける（通し番号は図と表で別）。図表それぞれの基本的な作り方は以下の通り。

表の作り方

- 表番号とタイトルは、**表の上側**
- 必要に応じて、下側に「注」を記載する。
- 原則として、縦罫線は引かない。横罫線も最小限。
- 表内では小数点以下の桁数を統一させる。

表 1. 性役割態度得点・〇〇・△△の基本統計量

	平均値	標準偏差	最大値	最小値
性役割態度得点	3.52	0.73	5.00	1.45
〇〇				
△△				

注)

図（グラフ）の作り方

- 図番号とタイトルは、**図の下側**に記載する。
- 必要に応じて、タイトルの下に「注」を記載する。
- グラフの縦軸・横軸には、軸ラベルをつける。
- 数値軸には目盛りをつけ、単位があれば記載する。
- 凡例が必要な場合はつける（例、折れ線が 2 本以上ある場合）
- 白黒以外の色は使わない。

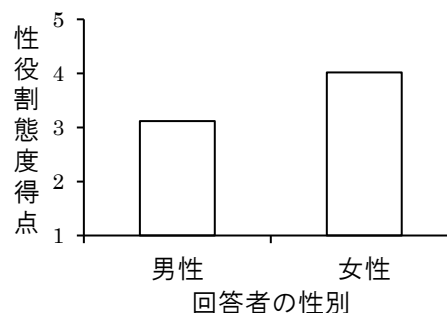


図 1. 男女別の性役割態度得点平均値

注) 値が大きいほど性役割態度が平等主義的であることを表す。



図表は、Word で直接作成してもよいが、Excel で作成してから Word に貼り付ける方法もある。その際、「形式を選択して貼り付け」→「図（拡張メタファイル）として貼り付け」を選ぶと良い。貼り付け後に編集はできなくなるが（なので Excel ファイルも保存しておく）、Excel での見た目がほぼ維持される。表を Excel から Word にコピーする場合は、Excel で各セルを白色で塗りつぶしてからコピーすると、Excel の薄い枠線が表示されずに Word に貼り付けられる。

5. 「考察」部分

「考察」は、結果を解釈し、研究で検討したかったこと(目的)に対する“答え”を述べていく部分。また、今回の研究結果から示された新たな示唆(研究上の進展や社会的意義)や、研究の問題点・今後の課題も示す。具体的には、以下のようなことを記述していくとよい(小見出しは不要)。

- 目的の振り返り・得られた結果のまとめ…研究目的を簡潔に振り返り、得られた結果の要約を記述する(結果に書いた数値を繰り返す必要はない)。
- 結果の解釈…研究で検討したかったこと(目的)に対して、結果からどのようなことが言えるか、そのような結果が得られた理由として考えられることなどを記述する。仮説があった場合には、仮説が支持されたかどうかを明確に述べたうえで、支持された理由あるいは支持されなかった理由を述べる。
- 研究の示唆・意義…研究テーマ・領域における本研究の意義(従来の研究との関連や、学問上どのような進展があったかなど)や、社会的な意義(研究で得た知見がどのような点で役立つかなど)を述べる。
- 研究の問題点や今後の課題…今回の研究の問題点(方法上の問題や今回の研究で明らかにできなかったことなど)を述べ、今後どんなことが検討されるべき課題として残っているかを記述する。

【考察を記述する際に特に注意すべきこと】

- 得られた結果を根拠として提示しながら、論理的に導ける主張・結論を記述することを心掛ける。
- そのため、文末表現は「～だと考えられる」「～と思われる」「～といえるだろう」「～が示唆される」が多くなる。「～が分かった」「～と思った」といった文末表現は用いない。

【「考察」の記述例】

本研究の目的は、〇〇と性役割態度が関連するかどうかを検討することであった。調査の結果、〇〇と性役割態度の間には正の相関がみられた。よって、仮説は支持された。また、〇〇について検討したところ、・・・・・・という結果が得られた。	}	目的の振り返り・得られた結果の要約
〇〇と性役割態度の間に正の相関がみられたことから、〇〇な人ほど性役割態度が平等主義的であることが示された。このような結果が得られた理由として考えられることは、・・・・・・。また、性役割態度得点の平均値を男女間で比較したところ、女性の方が有意に高く、性役割態度が平等主義的であることが示された。鈴木(1994)も同様の結果を示しているが、20年余り経過した現在もなお性役割態度には性差があるようである。ただし、その差は鈴木(1994)に比べれば小さい。このことから、・・・・・・と言えるだろう。	}	調査結果の解釈 + 研究の示唆・意義
本研究では、〇〇と性役割態度が関連していることが示された。これまでにこうした関連を示した研究は少なく、この点に本研究の意義を見出すことができるだろう。しかし、本研究にはいくつかの問題点もある。第一に、・・・・・・。第二に、・・・・・・。これらの点については今後検討が必要であろう。例えば、・・・・・・を検討することによって、・・・・・・が明らかになるだろう。	}	研究の意義
	}	問題点と今後の課題

6. 「引用文献」のリスト

「考察」の後に、本文中で引用した文献（本や論文など）の書誌情報のリストをつける。基本的な書き方は以下の通り。ただ、引用文献の記載方法には非常に細かいルールがある。そのすべてを理解して記述するのは困難なので、以下の記述例や、読んだ論文の最後に記載されている引用文献リストを参考に書いてみよう。

【引用文献リストの基本的な書き方】

- 本文中で引用した文献を過不足なく記載する。
 - × 本文中で引用した文献がリストに載っていない
 - × 本文中で引用していない文献がリストに載っている
- 参考文献（読んだが引用しなかった文献等）は記載しない。「引用文献」とは別に「参考文献」という項目を設ける必要もない。
- 日本語・外国語文献を分けず、著者名のアルファベット順で並べる。
- 1つの文献の書誌情報の記載が2行以上にわたる場合は、2行目以降を字下げする（通常の段落では1行目を字下げするが、引用文献リストは異なる）。
- 文献の書誌情報の書き方は、文献の種類（論文、本、編集書の特定章）によって若干異なる。
 - A) 学術誌や紀要に掲載されている論文の場合
著者名 → 刊行年 → 論文タイトル → 掲載誌名 → 巻数 → 掲載ページ
 - B) 編集者がいない本の場合
著者名 → 刊行年 → 本のタイトル → 出版社名
 - C) 編集者がいる本の特定章の場合
章の著者名 → 刊行年 → 章のタイトル → 編集者名（編） → 本のタイトル
→ 章の最初と最後のページ → 出版社名

【引用文献リストの記述例】

上瀬由美子（2002）. ステレオタイプの社会心理学——偏見の解消に向けて—— サイエンス社
潮村公弘・小林知博（2004）. 潜在的認知 大島尚・北村英哉（編）認知
の社会心理学（pp. 54-71）北樹出版
鈴木淳子（1994）. 平等主義的性役割態度スケール短縮版（SESRA-S）
の作成 心理学研究, 65, 34-41.

} 編集者がいない本の例

} 編集者がいる本の特定章の例

} 論文の例